

## ごあいさつ

---

厚木市は、地理的に首都圏の好位置にあり、昭和43年の東名高速道路厚木インターチェンジの開設を契機に交通の要衝として成長を続け、わが国の経済の根幹を支える優良企業が数多く立地するまちになりました。現在では、自動車、電気・機械、情報通信をはじめとしたさまざまなものづくり企業の研究・製造施設が市内各所に立地し、産業集積では県内でも有数の規模を誇っています。こうした産業集積の高まりは、数十年に渡って事業の成長に取り組んでこられた関係者の皆様の努力の結晶であり、心から感謝を申し上げるとともに、敬意を表する次第です。

厚木市では、今年度から「あつぎものづくりブランディング事業」を推進しています。卓越した技術や高品質の製品を持った市内企業のブランド力を生かし、優れた産業集積を都市の「ブランド」の一つとしてとらえ、厚木市の存在感を全国に示していきたいと考えています。この事業を通じて、企業間や企業と大学の連携が深まり、技術開発の促進や製品の品質向上につながり、地域経済が成長することを期待しています。

この冊子「あつぎものづくりブランド2012」では、「あつぎ、ニッポン、世界。このまちで生まれるものづくりの力。」をサブタイトルに、国の内外で活躍するものづくり企業50社と市内5大学を紹介しています。市内事業所の優秀な技術力と厚木市の持つポテンシャルの高さを市内外の多くの皆様に御理解いただくとともに、市民の皆様は厚木市への誇りと愛着を持っていただければ幸いです。

活力に満ちた暮らしやすいまちづくりのためには、経済の安定した成長と雇用の確保が欠かせません。厚木市は、多くの皆様と手を携えて、市内産業界の活躍を応援し続けてまいります。より強固で安定した連携に向け、皆様のお力添えをお願いいたします。

平成24年10月

厚木市長 小林 常良

## 目次

目次	01
巻頭特集 対談	02
厚木市掲載企業MAP	06

## 中小企業

## 精密機器

01 株式会社アパールデータ	08
02 株式会社インテリジェントセンサーテクノロジー	09
03 株式会社カナメックス	10
04 株式会社光学技研	11
05 株式会社工研	12
06 コペル電子株式会社	13
07 東京貿易テクノシステム株式会社	14
08 フェトン株式会社	15

## 部品/部材

14 株式会社内田製作所	21
15 株式会社MCシステムズ東日本	22
16 株式会社オーネックス	23
17 株式会社大場金属	24
18 株式会社柿生精密	25
19 株式会社菰下精密鋸断	26
20 株式会社武部鉄工所	27
21 堀硝子株式会社	28
22 株式会社マルイチ	29

## 機械

09 大久保歯車工業株式会社	16
10 東海工業株式会社	17
11 株式会社日本省力センター	18
12 株式会社明輝	19
13 由利ロール機械株式会社	20

## 化学

23 アイロム製薬株式会社 厚木工場	30
24 グレースジャパン株式会社	31
25 相模ゴム工業株式会社	32
26 株式会社ジークエスト	33
27 ジュジュ化粧品株式会社	34
28 株式会社大和ケミカル	35
29 株式会社レチテックス	36

## 衣食住/他

30 京商株式会社 厚木事業本部	37	35 有限会社中本製作所	42
31 黄金井酒造株式会社	38	36 株式会社ヴェルデ	43
32 株式会社五菱製作所	39	37 ベストレーディング株式会社	44
33 株式会社セルタン	40	38 株式会社ベネクス	45
34 タイヨー株式会社	41	39 株式会社武蔵野 神奈川工場	46

## 大企業

40 アンリツ株式会社	48	46 株式会社半導体エネルギー研究所	54
41 ソーラーフロンティア株式会社	49	47 日立オートモティブシステムズ株式会社 厚木事業所	55
42 ソニー株式会社 厚木テクノロジーセンター	50	48 株式会社放電精密加工研究所	56
43 高砂熱学工業株式会社 総合研究所	51	49 北興化学工業株式会社開発研究所	57
44 日産自動車株式会社テクニカルセンター	52	50 株式会社リコー厚木事業所	58
45 野村マイクロ・サイエンス株式会社	53		

## 市内大学

01 神奈川工科大学・大学院	60	04 東京工芸大学・大学院	63
02 松蔭大学・大学院	61	05 東京農業大学・大学院	64
03 湘北短期大学	62		

# 対談

【出席者】

アンリツ株式会社代表取締役社長

橋本 裕一

厚木市長

小林 常良

市民リポーター

白貝真理子 (聞き手)

## 「飛躍するまち —厚木市のポテンシャルと 成長の可能性」

世界的な企業や高い技術力を持つものづくり企業が数多く立地し、産業の集積度の高さを誇る厚木市。高規格幹線道路の開通などにより、さらに飛躍するまちとして期待されます。巻頭特集として、アンリツ株式会社の橋本裕一代表取締役社長と小林常良市長が、厚木市が持つポテンシャルと成長の可能性などについて語り合いました。

### あつぎものづくりブランド2012

■「あつぎものづくりブランド2012」についてご紹介いただけますか。

**市長** 厚木市の産業を支えている企業の素晴らしい技術力をブランド化して、厚木市の魅力を高めていこうという「あつぎものづくりブランディング事業」の一環で作成したものです。市内外の企業間のマッチングや企業誘致での活用はもちろんですが、一般市民の皆様にも理解を深めていただき、市内産業に誇りを持っていただきたいという思いも込めています。

**橋本** トップを飾る対談の相手に選んでいただき光栄です。厚木市には最先端技術を誇る企業が数多く立地しており、すでにブランド化された地域になっていると思います。このブランドをより一層強くすることは、厚木市のイメージアップにはとても重要なことですね。

### アンリツ設立の歴史

■アンリツは厚木市に本社がある歴史ある企業ですね。設立の歴史などをお聞かせいただけますか。

**橋本** 創業は1895年であり、2015年に120周年の節目を迎えます。この1895年は、マルコーニ(イタリアの無線研究家、1909年ノーベル物理学賞受賞)が世界で初めて無線電信実験に成功した年です。くしくもこの年に誕生したように、アンリツの足跡は情報通信の歴史そのものともいえ、世界初の無線電話システムのTYK式(3人の技師のイニシャル)無線電話機を製作したり、国産初のラジオ受信機や公衆電話機を世に出したりしています。

現在はスマートフォンなどの製造ラインや次世代通信技術の開発に欠かせない計測器が主力となっています。また、食品に紛れ込む異物の検出機なども提供するなど、見えないところで安全・安心で快適な社会づくりに貢献しています。

厚木市に進出したのは1961年であり、昨年50周年を迎えました。安立電気という会社組織になっての30周年記念事業の一環として行われました。複数の候補地を調査したところ、厚木市が最も工場誘致に熱心だったそうです。本社のあった麻布からの利



「グローバルマーケットリーダーを目指し、

事業創発により社会的使命を果たします。」

橋本社長



「あつぎ発の最先端技術が日本の

ものづくりを支えていると自負しています。」

小林市長



工系を中心とする多くの大学があるのは厚木市の大きな特徴です。これからの時代を担うエンジニアの輩出、新テクノロジー創造の面でも優れたポテンシャルがあるのではないのでしょうか。

もう一つの魅力として、自然の豊かさもあると思います。丹沢大山の山並み、相模川、それらにつながる街並みなど、自然に恵まれたまちに生活する

便性、地質の良さなどが評価され、厚木市が最適地として決定されました。

**市長** まさに日本のものづくりの歴史の中を歩いてこられたということですね。厚木市は平成27年に市制施行60年を迎えますが、ほぼ倍の歳月を経て今日があるわけですから、改めて歴史の重さを感じます。

### 厚木市のポテンシャル

■現在の厚木市のポテンシャルについてどのようにお考えですか。

**橋本** 厚木市は、高規格幹線道路の結節点であり首都圏への玄関口として機能していることから、多くの企業が進出してきたのではないのでしょうか。その一方、昨今の厳しい経済状況を受け、ものづくり企業の海外移転に歯止めがかかりません。企業の視点ではやはり、物流面の整備・充実も重要なポイントになりますがいかがでしょうか。

**市長** 現在整備が進んでいる圏央道

(さがみ縦貫道路)が全線開通すれば、東名・中央・関越・東北などの各高速道路を通して、首都圏の大消費地に直結したまちとなります。生産拠点としても、物流拠点としても利便性は飛躍的に高まると確信しています。

今後は、需要や雇用の拡大が見込める分野を戦略産業に位置付け、厚木の産業競争力を強化することが必要と考えます。そこから生まれる「あつぎブランド」によって厚木のステータスを上げていきたいと思っています。

■大学があるということも厚木市の強みですね。

**市長** 市内および周辺地域には理工系を中心とする多くの大学が立地し、

産学公連携に応える条件も整っています。時代をリードするさまざまな産業と優秀な人材が集まるまちです。私は、厚木発の最先端技術が日本のものづくりを支えていると自負しています。

**橋本** ハード面、制度面の整備は着々と進んでいるようで、心強いですね。理



厚木市長  
小林 常良

と市民の気持ちの持ちようも変わるのではないのでしょうか。

■厚木市の今後のまちづくりや産業界の在り方に何かご提案がございませうか。

**橋本** ものづくりの世界も様変わりし、かつてのハードウェアからソフトウェアの時代に入っています。このためにはICT(情報通信技術)のさらなる利活用が必要ではないのでしょうか。ネットワークを通じてさまざまな社



会・公共システムがシームレスにつながり、地域、行政、企業、大学などが結ばれ、点在している技術やノウハウが異業種を超えて共有できる「オープン・イノベーション」の場づくりを期待しています。

## アンリツの将来像

■アンリツは「2020VISION」を描いていますね。



アンリツ株式会社代表取締役社長  
橋本 裕一

**橋本** 経営ビジョンである「利益ある持続的成長を目指す」の下、2020年までに到達したい姿を描いたものです。グローバルマーケットリーダーになること。社会のニーズをとらえたアンリツならではの社会的使命を果たすため、事業創発で新事業を生み出すこと。この2本の柱があります。

私は、少子高齢化、労働力減のシルバー社会での新しいICT産業の創出こそ、日本再生へのシナリオであると

確信しており、ここにこそアンリツの社会的使命があります。アンリツらしい取り組みでこれからの社会づくりのお役に立ちたいという意を改めて強くしています。

## 市民と企業との協働のまち

■厚木市では協働のまちづくりを提唱されていますね。

**市長** これまでの行政は国から中央集権的に降りてきた政策をそのまま実施して成り立っていました。これが数十年前から疲弊していると指摘され続けて、今はもう地方が自立して自治体を経営する時代です。そのために協働の社会が必要なのです。市民への押し付けや、片寄った発想ではなく、市民と一緒に市政に参画する社会を築いていくことが必要だと考えています。

企業の皆様には、ボランティア活動としてさまざまな形でご活躍いただいております。まちづくりには、民間事業者の皆さんが持つさまざまなノウハウが必要です。厚木市のためにより一層のご協力をいただきたいと思います。

**橋本** 協働のまちは、素晴らしいコンセプトですね。アンリツでは市内の小学生向けの理科実験教室の開催やスポーツ大会の支援なども行っていますが、情報通信ネットワークや食品・医薬品の品質保証技術、遠隔監

視技術を有する企業集団として、さまざまな課題解決に挑戦する企業でありたいと考えています。社会との共生なくして企業の存続はあり得ません。これからも、厚木の地でアンリツならではの価値を発信していきます。

■社長はよく現場に出られて、社員の方とお話しなさるそうですね。市長も市民との対話を大切にしています。そんなトップのお二方が厚木にいらっしゃるということは、市民としてとても心強く思います。

**橋本** 創業120年を迎える長い歴史の中で、紆余曲折ありましたが、半世紀を厚木で過ごさせていただきました。非常に愛着のあるこのまちの発展とともに、あつぎものづくりブランドの一つとして貢献し続けていきたいと思っています。

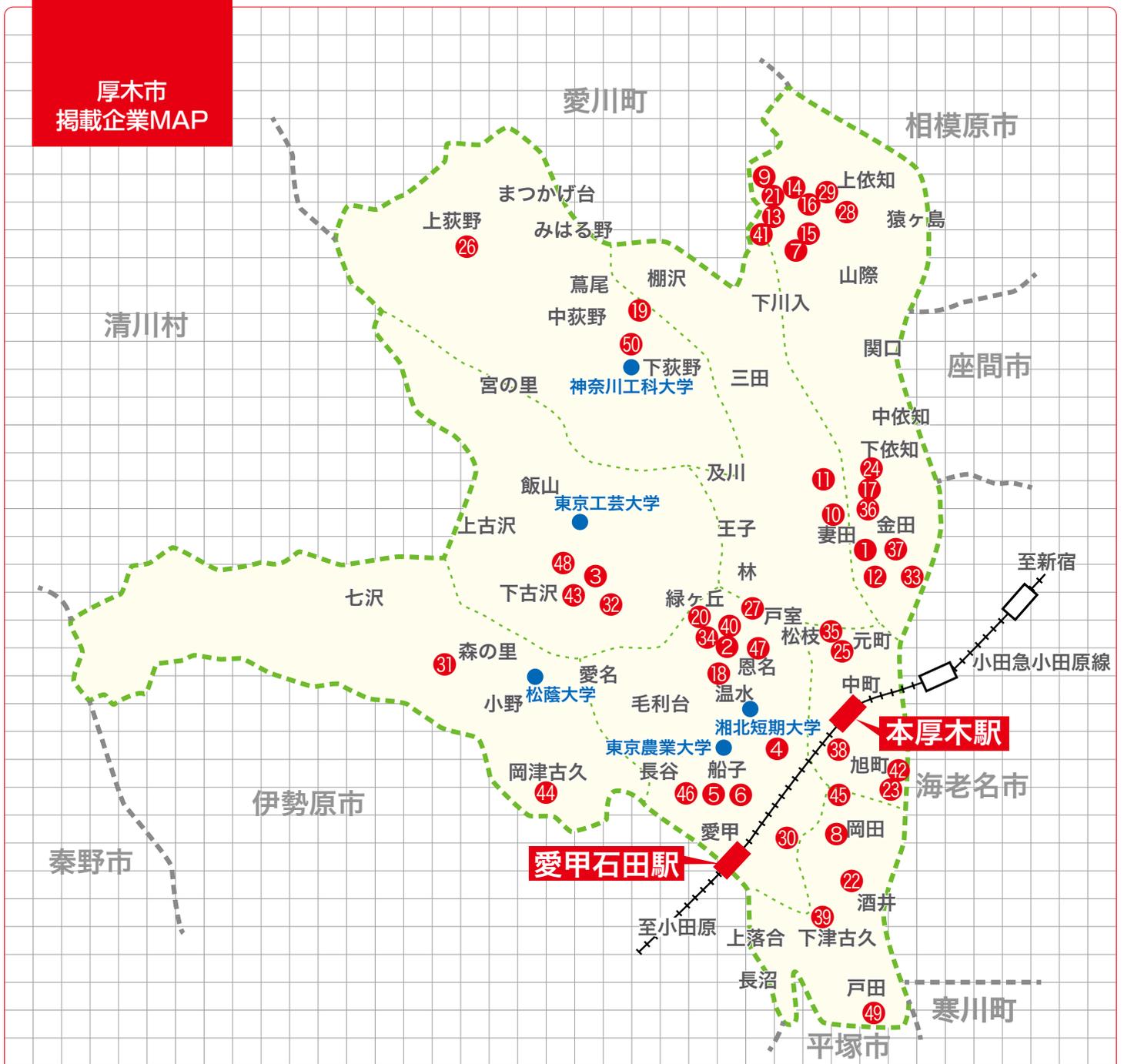
**市長** 世界中の電子機器を支えている企業が厚木に存在しているという



ことを再認識しました。厚木の誇りであり、自慢であり、とても力強く思っています。

国の内外ともに課題が山積していますが、市民、企業、行政が手を携え困難を乗り越えていくことで、厚木市の明日の姿が見えてきます。市内企業のますますのご活躍を期待しています。

厚木市  
掲載企業MAP



掲載企業一覧		
① 株式会社アパールデータ	⑱ 株式会社柿生精密	⑳ タイヨー株式会社
② 株式会社インテリジェントセンサーテクノロジー	⑲ 株式会社荻下精密鋸断	㉑ 有限会社中本製作所
③ 株式会社カナメックス	⑳ 株式会社武部鉄工所	㉒ 株式会社ヴェルデ
④ 株式会社光学技研	㉑ 堀硝子株式会社	㉓ ベストトレーディング株式会社
⑤ 株式会社工研	㉒ 株式会社マルイチ	㉔ 株式会社ベネクス
⑥ コベル電子株式会社	㉓ アイロム製薬株式会社 厚木工場	㉕ 株式会社武蔵野 神奈川工場
⑦ 東京貿易テクノシステム株式会社	㉔ グレースジャパン株式会社	㉖ アンリツ株式会社
⑧ フェトン株式会社	㉕ 相模ゴム工業株式会社	㉗ ソーラーフロンティア株式会社
⑨ 大久保歯車工業株式会社	㉖ 株式会社ジークエスト	㉘ ソニー株式会社 厚木テクノロジーセンター
⑩ 東海工業株式会社	㉗ ジュジュ化粧品株式会社	㉙ 高砂熱学工業株式会社 総合研究所
⑪ 株式会社日本省力センター	㉘ 株式会社大和ケミカル	㉚ 日産自動車株式会社テクニカルセンター
⑫ 株式会社明輝	㉙ 株式会社レヂテックス	㉛ 野村マイクロ・サイエンス株式会社
⑬ 由利ロール機械株式会社	㉚ 京商株式会社 厚木事業本部	㉜ 株式会社半導体エネルギー研究所
⑭ 株式会社内田製作所	㉛ 黄金井酒造株式会社	㉝ 日立オートモティブシステムズ株式会社 厚木事業所
⑮ 株式会社MCシステムズ東日本	㉜ 株式会社三菱製作所	㉞ 株式会社放電精密加工研究所
⑯ 株式会社オーネックス	㉝ 株式会社セルタン	㉟ 北興化学工業株式会社開発研究所
		㊱ 株式会社リコー厚木事業所

本冊子の掲載企業については、経済産業省の「元気なモノ作り中小企業300社」をはじめとする国・県の選定歴や厚木市企業等の立地促進等に関する条例の適用企業などから選ばせていただきました。御協力いただきました企業等の皆様に厚くお礼申し上げます。

## あつぎものづくりブランド2012

— あつぎ、ニッポン、世界。このまちで生まれるものづくりの力。—

平成24年10月

厚木市産業振興部産業振興課

〒243-8511 厚木市中町三丁目17番17号

TEL (046)225-2830